

STAFF INTERVIEW



BANK OF JAPAN

氏名：**藤山謙介**

Kensuke Fujiyama

PROFILE DATE

所属：本店新館設備改修グループ

担当：機械設備技師

入行：2015年

趣味：サイクリング



Q1. どうして日本銀行を選んだのですか？

私は2015年に機械設備技師として入行しました。正直なところ、日本銀行が技術者を募集しているということも当初は知らなかったのですが、ふと日本銀行のホームページで採用案内を見つけました。日本銀行は、わが国の中央銀行として日本銀行券の発行など、他に例のない様々な業務を行っています。外部にいと、これらの業務を支える機械設備は一体どうなっているのか、全く想像が付きません。本当のところ、とても偶然とは思えず、実態を知りたいという好奇心が芽生えて、応募することになりました。

Q2. 日本銀行の仕事の特徴はどのようなものですか？

機械設備技師として、本支店の営業所や銀行券の発券センター、職員向けの住宅施設の整備など、様々な案件に携わりましたが、特に印象に残っているのは、日本橋本店の本館の免震化に際して本館と新館・旧館を繋ぐ配管を更新した工事です。この工事では、築100年超の重要文化財である本館を、新館や旧館と接続された状態を維持しつつ免震化したのですが、その際には本館の重要文化財としての重要性を意識しつつ、その建物の中で職員が日々の執務を行うことを念頭に置いて快適な執務環境を提供できるように、また、地震等が発生した場合の業務継続も確保されるように、配管等の地震に対する追従性の確保など、様々な工夫を凝らしました。

日本銀行の技師は、設計だけでなく施工やその後の維持管理にも関わることになるので、非常に仕事の幅は広いと思います。ただ、どの案件でも、中央銀行としての業務が円滑に行われるよう建物・設備の観点から支えていく、という点では共通しています。

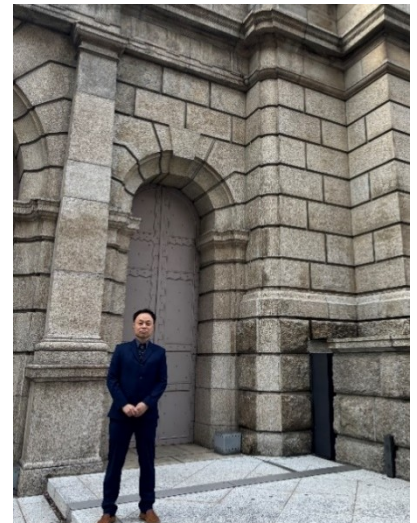
仕事の幅は広いですが、もちろん一人で抱え込む必要はなく、様々な関係者と共同あるいは協働して取り組んでいくこととなります。他工種の技師だけでなく、行内でいえば事務職員や、建物・設備の維持管理を担う技術員、外部の委託先として一緒に案件を進める設計事務所や施工会社、維持管理・保守業者など、様々な立場の関係者との丁寧なコミュニケーションが重要になります。

工事案件は長期間にわたるものが多いので、議論を重ねていく中で、同じゴールに向かって汗をかく仲間という感覚が段々と醸成されていきます。ユーザを含め、建築や機械設備の専門家でない人たちから理解や協力を得られるように、正確かつ分かりやすく説明するにはどのように工夫すればよいかを常に意識しています。

Q3. これから日本銀行の技師を目指す方にメッセージをお願いします。

日本銀行の建物は、一般的なオフィスビルと共通する要素もありますが、日本で唯一の中央銀行の施設ですので、他では見ることがない特殊な機械設備も多く存在します。こうした設備について、ユーザが安心してまた安全かつ安定的に使っていただけるようにしていくという目的のもと、ともに悩みながら、一歩ずつ前に進むことができる仲間に出会えたら嬉しく思います。

技師も専門家ですが、日本銀行での工事の仕事を進める上では、前に述べたように技術員や設計会社・施工会社といった数々の専門家がそれぞれの立場で関与していくこととなります。そういった専門家集団の立場を理解してそれぞれの意見を集約しつつ、ユーザとも気兼ねなくコミュニケーションが取れる——そういった人と人をつなぐような「仲介者」としての役割も技師には期待されていると考えています。ぜひ、そうしたことに興味を持ったり、やりがいを感じられたりする人に日本銀行に来ていただきたいと思います。



(2026年5月掲載)